



学校教育目標

自 ら 学 ぶ 子

「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

10月号 令和4年9月30日

たようせい そんちよう がっこう 多様性を尊重する学校

こうちよう わらしな なおき
校長 薬科 直希

『I'm POSSIBLE(アイム ポッシブル)』という言葉を目にしたたり、聞いたりしたことがあるでしょうか。この言葉は、「不可能 (Impossible インポッシブル)だ」と思えたことも考え方を変えたり、少し工夫したりすればできるようになる(I'm possible アイム ポッシブル)」という、パラリンピックの選手たちが体現するメッセージが込められた造語だそうです。

先日、横浜国際プールで行われたジャパンパラ水泳競技大会の観戦に出かけました。片腕や片足、さらには、両腕や両足がない選手、目が見えない選手など、様々な障がいのある選手たちが、それぞれの体の特性に合わせ最も速く泳げるスタイルで懸命に泳ぐ姿に心を打たれました。体のある部位がないことを全く感じさせない、全身を使った力強くスムーズな泳ぎ。まさに、パラリンピックを象徴する言葉である「失った物を数えるな。残されたものを最大限に生かせ！」を体現している姿に勇気もらいました。また、視覚障がいの選手にターンする壁やゴールを知らせるために、コーチがターンやゴールの直前に棒(タッピングバー)で選手の身体をタッチしていました。選手が壁を気にせず、全力を出し切るための工夫です。

パラスポーツは、より安全かつ公平に競技ができるように、用具やルールが工夫され、その人に必要な支援をすることで、障がいの有無にかかわらず、スポーツの楽しさが味わえ、自分の限界に挑戦したり、全力で競い合ったりすることが可能になっています。パラスポーツを「知ること」や「見ること」を通して、私の中の世界が広がりました。『I'm POSSIBLE』の精神で何事にも全力で挑戦しようという意欲がわいてきました。また、障がいを生み出しているのは、環境であり、人々の考え方であるということ学びました。その人にあった支援や工夫をして環境を整えることで、障がいは障がいではなくなり、その人のもっている力が存分に発揮されるのだということ強く感じました。

目に見えるものだけでなく、目に見えない障がいや特性もあります。障がいの有無だけでなく、見た目や性別、言語、文化、考え方、価値観なども多種多様です。現代は多様性の時代です。学校は、個性豊かな子どもたちの集まりです。誰もが自分の力を安心して最大限に発揮できるよう環境を整え、互いに人格と個性を尊重し合い「自分らしく あなたらしく」いられる学校、そして、互いに「学び合い、認め合い、高め合える」学校を、みんなで作っていきたいと思います。カメリンピックで、子どもたち一人ひとりがそれぞれの目標に向かって、もてる力を精一杯発揮して「その子らしく」取り組む姿を見られることを楽しみにしています。